

編集後記

現在の運動器疾患の構成を100年前と比べてみたい。1926年に創立した日本整形外科学会（日整会）の初期の宿題報告一覧から当時の疾患を拾い上げてみると、「先天性股関節脱臼」「骨端症」「骨関節結核」「脊椎変形」「淋疾性関節炎」などが並び、小児期の整形外科疾患や感染症が整形外科の重要な疾患であったと推察される（『日本整形外科学会八十年史』より）。一方、現在の疾患構成を日整会症例レジストリー（JOANR）2022年度のデータに求めてみると、多い順に5位までは、①大腿骨骨接合術、②人工膝関節置換術、③人工股関節置換術、④人工骨頭置換術、⑤前腕骨接合術であった。①と④は骨粗鬆症に伴う大腿骨近位部骨折に対する手術、⑤の前腕骨接合術も大半は高齢の患者さんの橈骨遠位端骨折に対する手術であり、その3術式で既に全整形外科手術の20%を超えている。演題と手術症例を単純に比較することはできないが、少なくとも100年前とは疾患構成は大きく様変わりしており、特に人口の高齢化を背景にした骨粗鬆症性骨折は今後も増え続けていくことが予想される。

骨盤輪骨折は一般に若年者の高エネルギー外傷によって起こることが多いとされてきたが、骨粗鬆症を

もつ高齢者では立位や座位からの転倒など、低エネルギー外傷で骨盤輪が骨折してしまうことがある。脆弱性骨盤輪骨折（FFP）は社会の高齢化とともに日本も含めて世界中で増加傾向であるとのことで、今回の特集は「脆弱性骨盤輪骨折—診断・治療と予後」のタイトルで宮本俊之先生にご企画いただいた。江良允先生には脆弱性骨盤輪骨折分類として2013年に発表されたRommens分類について詳しく解説いただいた。本症を診断し、的確に評価するためにはCT画像が有用である。北田先生、岡田先生には本症のCT所見の評価法や撮影時の工夫について述べていただき、伊賀先生、柳澤先生には具体的な治療方針の立て方について解説いただいた。そして堀江先生にはFFP後の生命予後について、檜山先生には機能的予後について言及いただいた。

時代とともに疾患構成は変化していく。FFPはまさに超高齢社会を反映した骨折であり、今後は誰しもが遭遇しうる外傷である。本特集ではFFPの分類、評価、治療方針、予後まで、全般をわかりやすく解説していただいた。是非ご一読いただき、読者の日常診療に役立つことを期待する。最後にご執筆いただいた皆様に心より感謝申し上げて稿を閉じる。（中島康晴）

「整形・災害外科」第67巻 第6号（5月号） 2024年5月1日発行（毎月1回1日発行） 定価 2,970 円（本体 2,700 円＋税 10%） 年間購読料金 定価 45,980 円（本体 41,800 円＋税 10%） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 (株) 文京メディカル TEL 03(3817)8036
--	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。